

多文化の背景を持つ子ども・若者の 育ち・学び・未来に関する実証的研究

人文学研究科：平井晶子

2024年度は豊岡市と三木市において多文化の背景をもつ子ども・若者に関する聞き取り調査を実施し、共通する3つの現状が浮かび上がりました。

- ・外国人市民は加速度的に増加していること
- ・出身国・地域がますます多様化していること
- ・変化に対応するため教育委員会・学校・支援団体が取り組みを強化しているが、模索中であり十分には対応できていないこと

< 豊岡市の新傾向 >

母国(アジア諸国)で大学を卒業し、専門職としての就労ビザで来日した20代前半の若者が増えてきた。幅広い日本語学習の機会が求められているが、地理的条件や労働環境により、依然としてそうした支援へのアクセスが難しい場合があることが問題である。

< 三木市の新傾向 >

近年、外国人住民が急増していることは他地域と同様だが、特に中東・東南アジア出身者の「マイクロ集住」が進んでいる。一方でまた、広い地域に散住する傾向も同時に進んでいる。そうした子供・若者たちの学習環境や居場所の整備が求められている。